

Dolphin site

バハマ ドルフィンサイト

どこまでも続く浅くて青いプールのような海。

海底には美しい白砂が広がっている。

ドルフィンサイトと呼ばれるこの海域には

究極のフレンドリードルフィンたちが住んでいる。

そんな究極のフレンドリードルフィンたちが

帰って来た！

そんな印象が強かった、2009年の

バハマドルフィンクルーズ。

「え？バハマのイルカたちは

いつもフレンドリーなんじゃないの？」

と言われそうだけど

とにかく昨年久しぶりに

伝説的なフレンドリー

ドルフィンの再来を思わせる

親密ぶりだった。

その真相は？

BAHAMAS

Let's swim with dolphins!

2010 BAHAMAS Dolphin Cruise Information

mail ▶ info@web-lue.com

Link▶ http://takaji-ochi.com INTO THE BLUE

Photo & Text Takaji Ochi
Design Sana☆

フレンドリードルフィンの歴史

1998年から毎年4週間～6週間のスケジュールでドルフィンクルーズ船をチャーターし、バハマのドルフィンサイト（通称）を訪れるようになって、すでに10年以上の歳月が流れた。よく10年以上もチャータークルーズが続けられてきたものだなと感じるのだが、その間には、タイセイヨウマダライルカたちとの様々な出会いがあった。今回は、ドルフィンドリーム号の船長、スコットが長年行ってきた個体識別をもとに名付けられた、歴代のフレンドリードルフィンに関する話をしていきたいと思う。

バハマリピーターの人たちは、親愛を込めて「おさわりイルカちゃん」とも呼ぶ、人懐っこいイルカたち。その言葉通り、一緒に泳いでくれるだけでなく、人と接触することを好む(?)野生のイルカたちが出現することがある。「出現することがある」と書いたのは、全てのイルカがそうではないということ。また、同じ個体でも、接触を好む時期やタイミングがあったり、そうでなかったりするので、その見極めは必要になってくる。

他の船では、触ることを認めていないものもあるだろうし、他の海で「野生のイルカに触る」なんてことは「信じられないこと」かもしれない。しかし、この海では、そんなイルカたちとの交流が実存している。

「野生のイルカに触る」

この海では、
そんなイルカたちとの交流が実存している。

Let's swim with dolphins! BAHAMAS Dolphin Site

10年以上この海を訪れていて、一番印象に残っているフレンドリードルフィンの名前は「ダービー」。1991年生まれの子のイルカで、この子のフレンドリーさは、今や伝説的にバハマリピーターの間で語り継がれている。どんなに凄いかって、言葉にはなかなか言い表せないけど、とにかく人との「接触」というものが、彼女にとっては当たり前の事のように。時には、首の部分で延々となでられて、うっとりした表情を見せたり、クルーに抱きかかえられるように、ハグされているのを見たこともある。

僕が別のイルカの撮影をしていると、後ろから肩を叩く奴がいるから、「今撮影中なのに、なんだよ！」と後ろを振り返ると、そこにあったのは、ダイバーの顔ではなくて、ダービーの嬉しそうなお顔だったりとか。潜って撮影を終えて、浮上しようとする僕の頭に乗っかってきて、浮上するのを邪魔するような悪戯をしたりとか。とにかく、彼女の武勇伝は、調べたらきりが無いほどにある。

そんな彼女も、子供が生まれてからは、まったく素っ気なくなりました。それに、行動は派手だったけど、身体には特徴があまりなかったので、船長のスコットが操船の方が忙しくて海に入らなくなったこともあるけど、彼女が生きているかどうか、2003年に降確認されていなかった。その後2004、2005年には、数多くのハリケーンがこの海域を襲い、それ以前に見られたイルカたちの多くが姿を消してしまいました。

カメラマンに悪戯したり、クルーに抱きかかえられるようにハグされていた。

僕もスコットも、ダービーもいなくなってしまったのかもしれないと、よく話していた。ところが、昨年2009年に僕が撮影したイルカたちの画像と、過去のスコットが撮影した画像データを比較して識別していたところ、なんと子供を連れてきたダービーの写真があったのだ。普段冷静なスコット船長が、ハウ（船首）でイルカを探していた僕のところまでやってきて、「ダービーだ！、ダービーが子供を連れてくる！」と嬉しそうに駆け寄ってきたことが、いかに僕らにとって、かけがえの無い存在のイルカであるかが伺えるだろう。

僕も嬉しくて、嬉しくて、誰かにその気持ちを伝えたいと思ったんだけど、そのとき船上にいた誰に伝えてもピンと来なかったようで（当たり前か）、なんだか昔のアイドルに出会ったことを興奮して「そんなアイドル知らない」世代の人たちに伝える哀愁のようなものを感じてしまった。

撮れてる写真も、たいしたこと無いのだけど、とにかく自分にとっては、今でも本当に懐かしい特別なイルカであることは、間違いない。

フレンドリードルフィンの歴史
伝説的イルカのダービー

Let's swim with dolphins!
BAHAMAS Dolphin Site

フレンドリードルフィンの歴史

今やビッグママ シャークベイト

伝説のイルカ、ダービーのお姉さんが、1989年生まれのシャークベイト。このイルカもまた若かりし頃は、かなりのおさわりイルカで、ダービーに引けを取らなかった。自分の身体を撫でるダイバーの背中に、テール部分を絡ませて、全身でハグしてみたい映像が、今でもスコットの撮影したDVDの中に残っている。

シャークベイトは、また沢山の子供を生んでいることでも知られている。知られているといっても、僕やスコット船長とクルーやほんの一部のリピーターの人たちの間でだけの話ではあるのだけど。そして、毎年のように赤ちゃんを連れて彼女の姿を目にするたびに、「あ〜、またドルフィンサイトに戻ってきたな」と感じる。

彼女には、身体にわかりやすい特徴がある。まず、背びれの先端がスパンと切れていること。それに左の脇腹の部分にサメに噛まれた大きな傷跡があること。この2点から、船上からでも簡単に識別ができる。しかし脇腹の傷の方は、年々増え続ける身体のマダラのせいで、ちょっと見えづらくなっている。

今いる彼女の赤ちゃんは、3个体目。最初の子供はメスで、スウィーティグ（1999年生まれ）と名付けられていた。僕と妻のミナは、この親子をテーマにした、子供向けの写真絵本も出版している。

ダイバーが身体を撫でると
そのダイバーの背中にテール部分を絡ませた。

Let's swim with dolphins! BAHAMAS Dolphin Site



← 関連情報HPへ

「エロ親父」と言われたジョルター

フレンドリードルフィンの歴史

女性ダイバーをなめ回すように眺め
去っていく
お触り好きのオスイルカ

この他にも、ロビン、シダーなどのフレンドリードルフィンがいた。ロビンは最近見ないのだけど、シダーの方は、今年赤ちゃんを連れて遊びに来ていた。その子が超フレンドリーだったので、将来が楽しみだ。ちなみに、ロビンはスコットの奥さんの名前をつけた、メスのイルカだ。

さて、フレンドリードルフィンの大半がメスだったのだけど、中にはオスも、メスほど個体数は多くないけどお触り好きのイルカがいる。「別にオスだろうが、メスだろうが、フレンドリーであればどっちでもいい！」のが大半の意見だろうけど、ここに1頭、以前女性クルーたちから「エロ親父」の異名をつけられたオスのイルカがいる。識別名はジョルター。かなり年配のオスイルカだ。人間で言えば、もう60歳とかそれくらいなのだろうか。この「エロ親父」、女性ダイバーが近くにやってくると、「ウィ〜、ヒュ〜、ヒュ〜、お嬢ちゃ〜ん」という感じで接近してきて、身体をなめ回すように眺めて泳ぎ去る。その行動があまりにいやらしいっぽかったので、「エロ親父」と呼ばれていたのだ。

後になって、イルカの調査を行っているステネラ号で、何頭ものイルカの糞を採取してDNA調査をしたところ、な、なんと、ほとんどのイルカに、この「エロ親父」と同じDNAが含まれていたという事実が発覚したそうだ。つまり、ジョルターは生半可な「エロ親父」では無く、それ相応の実力も持ち合わせていたわけだ。今も「エロ親父」的な行動をしているのかはわからないけど、人間の女性にまでそんな色目を使ってくるなんて、本当に凄い奴だなと感心したのは言うまでもない。

Let's swim with dolphins! BAHAMAS Dolphin Site

新たなフレンドリードルフィンたち

フレンドリードルフィンの歴史

そして昨年、メインのお触りイルカとして、皆の前に登場したのが、ブラブとエヴァという2頭のメスイルカと、ワックスと名付けたオスのイルカの計3頭。この3頭、ほとんど毎日のように姿を見せてくれて、しかも一緒に行動しているものだから、中には2頭一緒に触ったり、ダイバー全員と触れ合うことができた週もあった。

2004年、2005年のハリケーン直撃で減ってしまったイルカの個体数も、今年はそれ以前並みに増えてきたような印象がある。特に親離れ直前直後の、若いイルカたちの姿が目立った。ハリケーンシーズン前のドルフィンクルーズ最盛期には、バハマのドルフィンサイトに姿を見せるボートの数が1日に7～8隻見られたこともあったけど、最近ではそんなラッシュも無く、今年は定番のクルーズ船の姿しか見当たらなかった。ラッシュと言っても、ほとんどが遠方に船が見えるだけなので、御蔵島や小笠原を経験して初めてバハマを訪れた人には、そんなに船が沢山いるようには感じないと思うけど。

そんな理由もあるのか、昨年は5週のチャータークルーズを行って、1週で5日間イルカと泳ぐことができた。過去の10年間以上のデータからすると、5週くらいチャーターしていると2～3日はまったく泳げない日があったので、この確率はかなり喜ばしい状況にあったと言える。今年の2010年も、そんなフレンドリードルフィンたちが沢山、姿を見せてくれることを期待している。

2頭一緒に触ったり
ダイバー全員と触れ合えたこともあった。

Let's swim with dolphins! BAHAMAS Dolphin Site



フレンドリードルフィンの歴史

新たなフレンドリードルフィンたち

Let's swim with dolphins! BAHAMAS Dolphin Site

Information Link
<http://takaji-ochi.com>

← 関連情報HPへ

フレンドリードルフィン[®]の歴史

新たなフレンドリードルフィンたち



Let's swim with dolphins! BAHAMAS Dolphin Site

フレンドリードルフィンとの交流を楽しんだ ゲストの面々

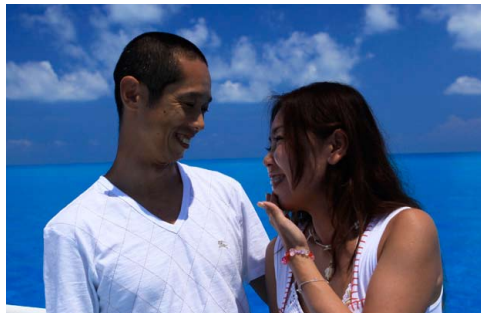
高瀬 麻里さん

今回、私は初めてのバハマでした。船での生活、想像もつかない海の青さにドキドキワクワクでした！そして、その期待は裏切ることなく、ものすごく素敵な仲間との楽しい乗船生活とそして今まで見たことのない海の青さに自然と涙がこぼれていました。

そしてなんとと言ってもタイセイヨウマダライルカの可愛さといったらまらない！！つぶらな瞳で触ったいよと話しかけてくれる瞬間、プリッとした体でそっと寄って来てくれる彼らは私の中のすべてをHAPPYしてくれました。

初めてのバハマで触れるなんてホントに嬉しかった。彼らに囲まれながら泳いでいる時間はスローモーションのように覚えています。

こんな私を受け入れてくれたイルカ達に感謝！そして、こんな私をサポートしてくれたクルー、クルーズの仲間、本当に感謝の旅でした。来年はベタ凧なバハマに出会えることを期待しています！



中野 薫さん

「イルカの楽園だから」と妻に勧められ、新婚旅行はバハマドルフィンサイトに決めました。妻にとっては4度目のクルーズだけど、私にとっては初めてのバハマ。噂は色々聞いていましたが、想像以上の楽園でした。

360°見渡す限り水平線までベタ凧が続く青い海。独特の海の色を作る真っ白な砂。そして、日本では見かける事のないタイセイヨウマダライルカ達。ここまで美しい海だとは思っていませんでした。到着初日から体力の続く限り海に出て夢中でイルカ達と泳ぎました。

天候も穏やかな日が続きコンディションは最高で、毎日現れるイルカ達と、夢のような日々を過ごす事ができました。

ゲストやクルー達に囲まれての船上ウェディングパーティー、越智さんに撮って頂いた二人の写真も新婚旅行の大切な思い出になりました。今度は子供を連れてこの楽園に帰ってきたいと思います。

- 01/初めてのバハマで、イルカに触ることが出来た高瀬さん
- 02/ベタ凧の海でイルカとのランデブーを楽しむ中野さんと奥さん
- 03/海を見ながら仲良く微笑むお二人
- 04/真新しいマリッジリングがバハマの日差しに光る



01

02

03

04

フレンドリーなイルカとの交流を楽しんだ ゲストの面々



01



02

Let's swim with dolphins! BAHAMAS Dolphin Site

上田 広美さん

「世界で一番フレンドリーなイルカと泳ぎたい」そう思い続けて数年。

新婚旅行だからと、数年前に思い切って申し込みをしました。初めての海外旅行で不安でいっぱいでしたが、リピーターの皆がいろいろ教えてくれて、とても頼りになりました。

青い海に白い海底、手が届くくらい近くで寄り添って泳いでくれるイルカ。キレイな夕陽。満天の星空。どれも感動的で今でも目を閉じると浮かんできます。

そして新婚旅行だからと、皆で開いてくれたサプライズパーティが忘れられません。衣装もケーキも用意してくれ、船を飾り付けてスタッフも皆でお祝いしてくれました。手作りの心温まるパーティで恥ずかしながらもとても嬉しかったです。

私達は幸せ者だなあとと思います。今でもありがたい気持ちでいっぱいです。

「バハマでイルカに会えたこと、ステキな笑顔の皆に会えたこと、憧れの越智家に会えたこと。」どれも私達二人の大切な宝物です。



01/イルカとの時間を楽しむ上田さんご夫婦

02/5頭のバンドウイルカと一緒に泳ぐ黒谷さん



黒谷 尚子さん

私が初めてバハマドルフィンクルーズに参加したのは、2007年の事でした。ドルフィンスイムの経験も浅く、また一人での参加ということで不安はありましたが、越智さんはじめご一緒させて頂いた皆さんに助けられ、長年の夢だったバハマでのドルフィンスイムを楽しむことができました。

360度見渡す限りの青い海と白い砂、照りつける太陽、そしてかわいいイルカと過ごした日々は、毎日が興奮と感動の連続で、下船する時には、また来年も絶対来るぞと決めていました。そして迎えた三年目の今年も新婚旅行としての乗船でした。

夫は越智さんのご子息、海友君に遊んでもらい童心に帰ったらしくとても楽しんでいました。

思いがけず(?)開催して頂いた船上ウエディングパーティーでは、同乗された皆さんに祝福されとても感激しました。その飾り付けを日本から準備して下さった充奈子さん、本当にありがとうございました。

クルーズで出会った方々とは帰国後も仲良くしていただいております、いつもイルカの話で盛り上がっています。またいつの日か、バハマで再会できる日を、海を、イルカを、ビールを(笑)楽しみにしています。



森 枝里さん

「ドルフィン！」クルーの声で皆の目が輝く。初参加の私は、期待と不安とワクワクな気持ちで胸が一杯になったのを覚えています。パハマのどこまでも続く青い海にイルカが優雅に泳いでいる姿を見た時は「こんな楽園みたいな海が本当にあるんだ」とその光景に夢中になりました。

水中で目と目が合いタイミングを合わせてクルクル一緒に回ってくれた事、遊び足りない赤ちゃんイルカが追いつけない私達を止まって待っていてくれた事、初めてイルカに触れた事…思い出す全てが、この海だからこそ体験出来た事だと思います。

ドルフィンスイムだけではなく、皆でハネムーンの方のお祝いをしたり、ビール片手に満点の星空を眺めたり、夜な夜なゲームに燃えてみたり、素敵な仲間と過ごせた時間が最高の思い出になりました。ご一緒できた皆様に感謝の気持ちを込めて。またパハマの海でお会いしたいですね！

吉川 由布子さん



3度目の参加になる今回は、文字通り波乱の4週目でした。3週目まで海はベストコンディションで、イルカ達は出まくりだったとの話。期待は高まるけれど「1ヶ月もベストは続かないかなあ」と不安も高まる。

案の定クルーズ中は、いまひとつなお天気で、波も高く波酔いしながら泳いでいたくらいだった。

伊藤 エリナさん



360度の見渡す限りの青い海と空。携帯電話も通じない大海原のど真ん中で、イルカとすごした数日間はかけがえのない休日でした。

日々の予定はイルカと天気次第。いったんイルカの気分が乗ると、いつまでも遊んでくれる。イルカがいなときは海を眺めて待つ。そんな気まぐれさが、大自然に身をゆだねているようで心地よかったです。

カメラ片手に自分だけの一枚を追い求めるのも楽しいけど、イルカみたいにグングン泳ぐのもまた気持ちいい。職業柄か、ファインダーをのぞくと周りが見えなくなりがちな私。あるとき思い切ってカメラを持たずに海に入ってみると、イルカと目と目で会話しながらどこまでも潜っていけそうな、そんな瞬間を味わえました。

日本人の好みに合った食事も美味しいし、船も快適。クルーや同じ旅の仲間との会話も楽しい！リピーターの仲間入りしそうです。

それでもイルカ達は毎日来てくれたし、いつスイム中止になってしまうか分からないので、いつもより1本1本を大事に泳いでいた。触られたがりの若いイルカ達や私の事を気に入ってくれたのか、何度も寄って来てくれた年長イルカの優しい目が忘れられない。

最終日、ストームが過ぎた後「もう終了かぁ・・・」と諦めかけた時に見つけたイルカ達にもすごく感動しました。今年は今までよりも内容の濃いスイムができたように思う。でもやっぱり来年はパハマらしい青い空と青い海、白い砂、たくさんのイルカ達を期待してます！

01/ 思わずイルカたちに手を差し伸べる吉川さん

02/ イルカと一緒に、夢中になって回転する森さん

03/ 夢中でイルカを撮影する伊藤さん

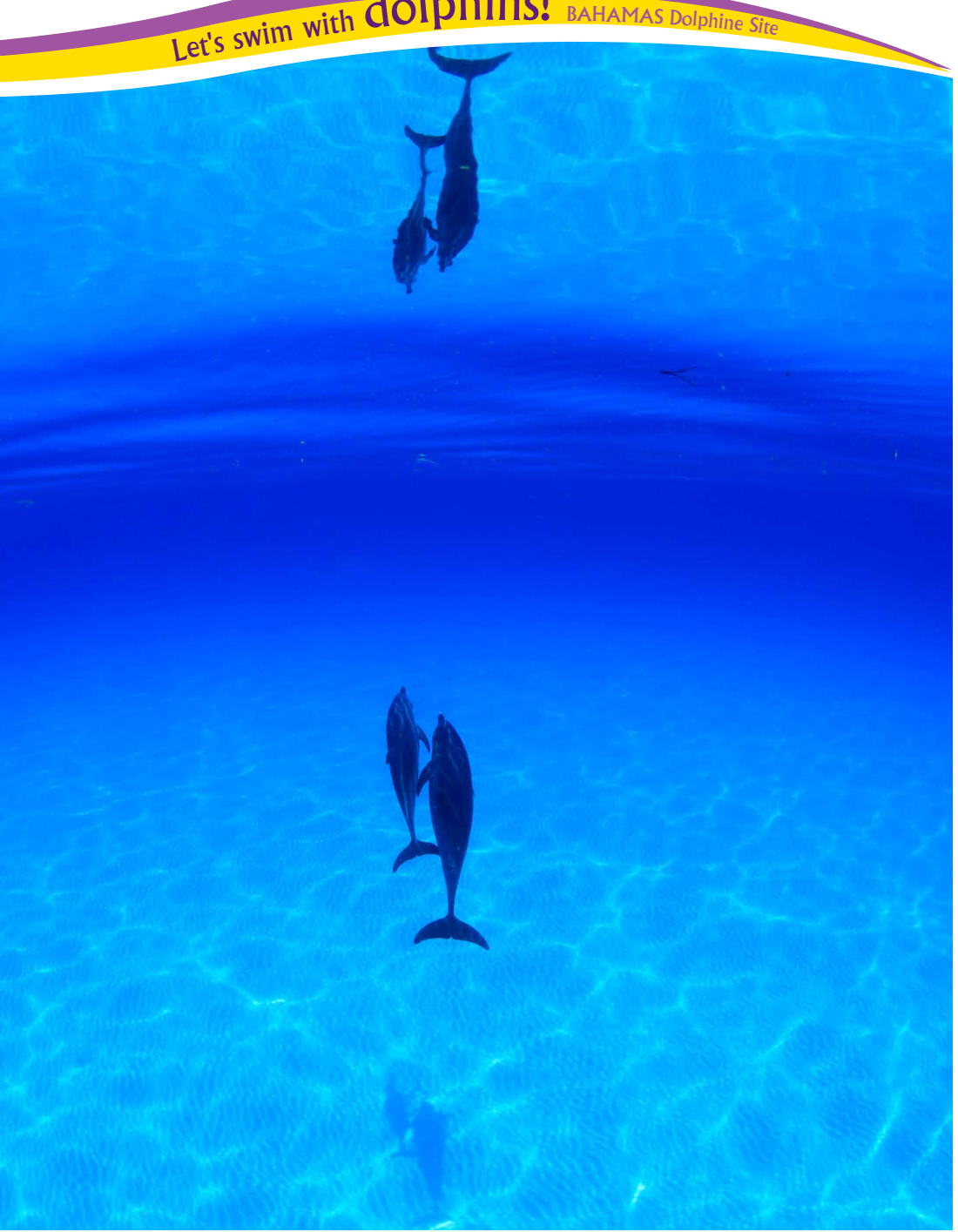


Let's swim with dolphins! BAHAMAS Dolphin Site

フレンドリードルフィンとの交流を楽しんだゲストの面々







INTO THE BLUE・WEB-LUE 主催 2010年バハマドルフィンクルーズ

2010年チャータークルーズ予定

1週目 ▶ 6月 4日(金)～6月13日(日)

2週目 ▶ 6月11日(金)～6月20日(日)

3週目 ▶ 6月25日(金)～7月 4日(日)

4週目 ▶ 7月 2日(金)～7月11日(日)

*日本発～日本着までの日程

アクセス方法

日本からアメリカのハブ空港を経由して、フロリダのウエストパームビーチへ。ホテルで1泊後、翌日マリーナから船に乗船し、バハマのグランドバハマ島へ。バハマの出入国手続きを済ませ北上し、ドルフィンサイトへ向かう。

ドルフィンドリーム号

クルーズ船のゲスト定員は12名。6部屋で2段ベッド。ドアは無く、それぞれの部屋がカーテンで仕切られている。

お問い合わせ

mail ▶ info@web-lue.com

Link! ▶ INTO THE BLUE
<http://takaji-ochi.com>

